山都町立潤徳小学校　学校だより

潤徳小伝説～永遠に～

潤徳小HP　令和５年５月１２日（金）　第８号
QRｺｰﾄﾞ←カラーで見られます！　校　長　池部　聖吾智（みわとも）

小規模校の良さ～異学年交流～

最近、昼休みに上級生が下級生と遊ぶ場面を多く見かけます。見ていてほのぼのとした気分になります。小規模校のよさです！

また、今年は一輪車がブームとなって（詳しくは、本校ＨＰをご覧ください）、鬼ごっこに駆り出されることがなくなり、マイペースでウォーキング（最近はプチ筋トレも）ができるようになりました。

でも、頼まれたら一輪車の練習（見守り）につきあうようにしています。私は、この行為を「愛のチカラ」と呼んでいます。

ここ数日は昼休み終盤になると、低学年の子同士で「長い針が５にきたから戻ろう！」と声を掛け合うようになりました。１年生にもわかりやすい言葉で「５分前行動」を意識させ、行動化できています。担任の先生のあまりにも秀逸なこの指導に私は、うなりました。

複式学級の指導の困難さにも、「チーム潤徳小＋使える人材は活用」で対応します

今年度は、低・中学年が複式学級となっています。私も学校にいる日は、１日１回は授業に入るようにしていますが、同じ教室で同じ時間に２学年の授業をするわけですから本当に大変です。昨年、私自身も５・６年生で授業をしましたが、グダグダの授業になってしまいました。しかし、公教育の使命は、「どこに生まれても、住んでも等しく学ぶ権利を保障する」ことにあります。与えられた環境で、使える人材は活用しながら、潤徳小の総力を挙げて取り組みます！一方メリットもあります。子どもたちにとっては、「自ら学ぶ」チカラを育む貴重な機会となるのです！

潤徳抄Ⅱ

昨日早朝にrad.icoであるお笑い芸人のパーソナリティ番組ラジオを聴いていたら、さんが「家で強盗のニュースを見ていたら、娘が『何？これ強盗？みんな黒い服着て白いお面？イヤ！ダッサー』と言った」という話に、　さんが「そんな問題じゃないだろう！」とツッコんでいた▼この話が、９日の郡校長会議で聴いた「ネット問題」に関する講話と見事に重なった。講話では学校教育で育ててほしい事として次の２点を挙げられた。①誹謗・中傷の文章を見て「不快・つまらない」と思える感性②誹謗・中傷の文章を圧倒する表現力▼まさに前述の　さんの娘さんの話は①にあたる。ラジオっていいなと思う。読書と同じくらい私にとって学びの場となっている。画像がないので頭の中で想像する。読書と重なる部分が実に多いのだ。学生時代「ながら族」だった私にとって、ラジオは作業能率が上がる格好の材料である。今はクリアな音声で、ネット上でも聴けるよき時代になった。